



サフラン便り

第60号 24年12月15日発行

発行：佐賀県薬剤師会女性薬部会
佐賀市本庄町大字本庄 1269-1
TEL:0952-23-8931 FAX:0952-23-8941
<http://www.sagayaku.or.jp/josei/index.html>

日本女性薬剤師会 移動セミナーin 愛媛 報告

日時：11月4日（日） 9：30～16：30

場所：松山市立子規記念博物館

内容：記念講演「子規の最期一糸瓜の水も間に合わず」



松山市立子規記念博物館 館長 竹田美喜先生

特別講演「がん治療と地域連携」

国立病院機構四国がんセンター 統括診療部長 谷水正人先生

ランチョンセミナー「在宅高齢者医療モデルシステムー新居浜医療生協を利用したフィールド研究」

東京大学政策ビジョン研究センター教授 秋山昌範先生

基調講演「お薬からどうつながっていくか？～保健所長のひとりごと～」

愛媛県今治保健所長 廣瀬浩美先生

シンポジウム第1部

① 調剤薬局の在宅医療への取り組み ② 薬局と訪問看護ステーションの連携

③ 企業としての地域連携への取り組み

シンポジウム第2部

① 希望をもってがんと向き合う為に ② 地域と連携した緩和ケア教育への取り組み

<参加者感想>

- * 正岡子規のふるさとでの移動セミナーの開催で子規記念館の館長の竹田美喜さんの講演は涙が出るくらい感動しました。死の床で「生きる」闘いを続ける子規への愛情、夏目漱石をはじめ仲間の愛、家族の愛…在宅医療の原点を感じさせられました。
(佐賀市支部 田中須磨代)
- * 初めての四国、初めての愛媛、初めての移動セミナー。正岡子規の生き様や城下町の雰囲気や直に触れ、あらためて生きることの大切さ、人の温かさに触れた2日間でした。敷居が高いと思っていた移動セミナー…皆にもさっそく来年の草津を勧めました。
(鳥栖三養基支部 三橋博子)
- * 正岡子規のふるさと愛媛県松山市。松山市立子規記念博物館館長竹田美喜氏による記念講演「子規の最後一糸瓜の水も間にあはず」は印象的であった。正岡子規を深く研究されている竹田館長による、35歳の非常に短い一生での闘病の中で文学に捧げた子規、麻痺剤を服用しての執筆と興味が沸く講演だった。妹律への女子の教育が病気の介抱に必要であると記している「病牀六尺」、「墨汁一滴」「仰臥漫録」「体温日記」「麻痺剤服用日記」などタイトルをみても興味をそそられた。
(佐賀市支部 福島あさ子)
- * 四国の媛の国は人も空気も温かく「お接待」を実感しました。子規記念博物館館長の「子規の最期…」の講演内容には、何らかの見返りの期待感を感じさせない介護の基本をみたようで深く心に残りました。「支援、援助」と媛のつく意を感じました。充実した時間の最後に松山空港で愛媛出身のテノール歌手に会えてラッキーでした。
(佐賀市支部 島田智子)
- * 愛媛県松山と言えば夏目漱石の「坊ちゃん」が有名ですが、その漱石が結核で脊椎カリエスを患って失意の正岡子規を喜ばせようとして「吾輩は猫である」を書いたそうです。「柿見れば グーと鳴るなり 我がおなか」知子作俳句を文学として確立させた子規がこの句を見たら嘆くだらうな～(ー;) (鹿島藤津支部 池田知子)
- * 愛媛県女性薬会長から「佐賀の移動セミナーを参考にしました」というお礼の言葉に恐縮しました。受付からおもてなしの心が感じられ会員の結束した取り組みがありました。講師の先生方も素晴らしく企画力に敬服しました。来年の九山大会も皆で力を合わせて頑張らなくてはと思いながら帰路につきました。
(宮地和子)

<ボーデンス・モルテッド・ミルクの使用法に就いて>

分量はすべて本品に添付する標準匙(2グラム半)によるので有ります。「山盛りではなく必ずスリキリに計るのであります」山盛りは不規則であります。又容器は必要な分量を掬いだした後は「直ちに蓋を堅くし湿気のない所へ保存」して下さい。

ボーデンス・モルテッド・ミルクを溶解するには所要の分量を容器に量り之に所要の温熱湯の必要量を全部注ぎ入れ直ちにかき混ぜる。至極容易に乳汁が得られます。

乳の温度は体温と同様に冷ますこと及び「哺乳の度毎に新しく溶かす事は乳児の為に必要であります。決して残りの者や又は溶かしてから多くの時間の経過したものは飲ませてはなりません。

哺乳時間及び分量は乳児を観察する事が必要であります。滋養分の濃厚なものを要する乳児もあり、薄きを要する乳児もあり、量を多くして度数を少なくする方が良いものもあります。然し、いずれの場合も胃は消化の為に相当の時間を要しますから、哺育の時間は定めて置かねばならないのであります。

病身で消化力の弱い乳児又は便秘或いは下痢する乳児には特に薄くして与える必要があります。

大人に滋養料として用いる際は九匙に温熱湯一合が適当であります。

(米國ボーデンス・ミルク會社 ボーデンス・モルテッド・ミルク日本部 總代理店 岡本商會版)

これで最終になります。佐賀県薬史の参考資料発掘で「野中烏犀園」に伺った時にいただいた「育児の糧」を抜粋して掲載しました。

<女性薬剤師交流会のお知らせ>

今年度も会員、非会員を問わず女性薬剤師の親睦と情報交換の場として開催いたします。今回は評判の中華ランチとフラワーアレンジメントを企画しました。薬局や家庭でも癒しの空間を作ってみませんか？何より「薬剤師」という共通する立場での交流で連携が取りやすくなっていくのではと思います。参加資格は女性薬剤師ということです。できるだけ多くの方にお声かけをしてお誘いください。皆さまのご参加お待ちしております。

日時：平成25年1月20日(日) 12時～14時(受付11:30～)

場所：マリトピア シャンリー

会費：3500円(プチ・レッスン花代含む)当日集めます

内容：食事をしながら交流会(12時～13時30分) 予定

プチフラワーアレンジ講習(13時30分～14時)

講師 フラワーサークル ロンボワン 鶴田 留美子 先生(ヨーロッパフラワーデザイナー連盟認定講師)



<ちょっと一言>

ずっと気になっていた私のデスク周りの断捨離をしました。古くなった情報物を随分抱えこんでいました。シマッタ！これを保管する為に家賃を払っていたのか～。見渡すと無駄遣いがあれもこれもと出て来るのですが、「無駄遣い達」とのサヨナラはなかなか難しいです。上手にサヨナラしたいです。今日は「痩せたら着れるかも達」にサヨナラ勝ちします。(島田)

この度、女性薬部会情報紙「サフラン」は60号を迎え、10年間お届けしたことになります。当初、非会員、未就業を問わず多くの女性薬剤師の先生方にも部会の活動をお知らせし、薬剤師会の活動に興味を持っていただき参加してもらいたいという思いから始めました。昨今、通信手段が多々あるなかで、折角会報に同封してもらえるご配慮を歴代会長からいただき、これからも続けていこうと決まりました。次号からは女性薬部会の委員がローテーションでもって作製していきます。請うご期待。これからも女性薬部会の活動を見守りください。(宮地)